

認知症がある姉から妹への日常的な暴言・暴力等の嫌がらせ行為に悩んでいる 相談・支援

■人権キーワード

高齢者、高齢者虐待、認知症高齢者

■相談の主訴

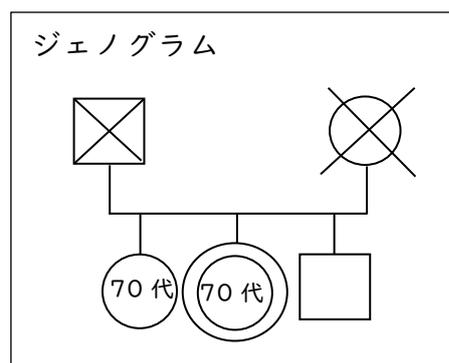
認知症の姉から日常的な嫌がらせや暴力に悩んでいる高齢の妹（相談者）は、姉との距離を遠ざける方法がないか悩んでいる。

■相談者の状況

- ・ 70代前半、女性、一人暮らし。無職、収入はないが貯金で生活している。
- ・ 読み書きや料理ができない。高齢や脳卒中により運動機能や認知機能が低下し、身の回りのことができなくなりつつあり、衛生面や生活に影響が出てきている。
- ・ 介護サービスの利用や入院は拒否しており、相談窓口以外に地域との交流がなく、社会的に孤立している状況。

■家庭状況

- ・ 家族は、一人暮らしの認知症の姉と、遠方の他県にいる弟（60代後半）の3人きょうだい。相談者と弟は連絡を取る仲ではない。
- ・ 認知症の姉（70代後半）は、相談者宅の近隣に一人で居住。他者に対して非常に攻撃的な時がある。市の認知症支援サービスを受けていない。姉と弟は絶縁状態。
- ・ 父母は他界している。



■相談に至った経緯

これまで相談窓口を利用していた相談者が負傷した姿で来所され、負傷した原因が姉であることがわかり、日常的に姉から虐待を受けている等の相談を受けるに至った。

■相談内容

- ・ 姉からの日常的虐待以外に、昼夜を問わない自宅への頻繁な訪問、脅迫や罵倒、暴

力を振るわれたこともある。

- ・ 姉が近くにいると身の危険の恐れがあるので、姉を遠ざける方法がないかと相談者は考えている。

■対応

- ・ 地域にある地域包括支援センターや医療機関等の地域機関及び市介護保険担当課との連携、ケース検討会議において緊急避難策や福祉施設の利用等の支援方策を検討した。
- ・ 地域関係機関どうして見守りを行なうとともに、姉と何かトラブルが起こった時にすぐに相談者から連絡を得るようにした。
- ・ 相談者から連絡がある度に、姉とのトラブル現場へ行き、姉の説得を試みた。
- ・ 相談者は料理ができないため、地域にある配食サービスを提供できるようにした。また、地域包括支援センターを通じて、生活支援等の利用を勧め、食事や生活環境、衛生面の改善を進めた。
- ・ 警察とも連携し、緊急時や危険な時の駆けつけを依頼した。

■評価および今後の課題

- ・ 日頃から相談を受けている相談員との人間関係があり、早く虐待を発見できた。
- ・ 高齢者支援機関や担当部署、地域の関係機関どうしとの連携、ケース検討を行なうことで、日常的な見守りや各機関との緊急時対応を行なうことができた。
- ・ 地域包括支援センターを通じて生活環境の改善を図るとともに、見守りも行なうことで、姉からの虐待防止に繋がった。
- ・ 姉は認知症により認知機能が低下しており、妹に対して虐待をしているという意識はなく、対応後も妹にトラブルを起こすことがある。姉に高齢者支援機関・サービスの利用が必要であるが、姉は周りの人すべてに不信感を抱いてサービスの利用が進まない。認知症の進行や生活環境の変化を把握するため、今後も姉への見守りが必要である。

■連携が想定される資源・利用が想定されるサービス等

- 市町村の高齢者虐待防止・高齢者福祉・介護保険担当部署
- 地域包括支援センター
- 市町村の成年後見制度担当部署
- 市町村老人センター・憩いの家
- 府保健所
- 市保健所・保健センター
- 市町福祉事務所
- 市町村の人権担当部署
- 人権文化センター

- 人権地域協議会
- 警察署
- 医療機関（後期高齢者医療制度、認知症疾患医療センター、認知症サポート医）
- 認知症地域支援推進員
- 認知症初期集中支援チーム
- 市町村社会福祉協議会
- コミュニティソーシャルワーカー（CSW）
- 認知症の人と家族の会
- 認知症カフェ実施団体・事業所
- 高齢者・介護サービス事業所
- 認知症サポーター
- 民生委員
- 地域ケア会議

【参考情報】

- 高齢者虐待防止法
- 介護保険法